

## 飛鳥散策

平成 20 年 10 月 26 日（日）  
近畿双松会歴史ウォーキング第 3 回行事  
報告者 押田 良樹

「あすか」、「飛鳥」、「明日香」その響きと字はなんともいえぬ懐かしさとロマンを感じさせる。

第 3 回を迎えた歴史ウォーキング、今回は古代の都飛鳥を歩いた。

週間予報では天気は心配なかったのだが、前日夜遅く念のためネットで見てみると、なんといつの間にか奈良県北部・明日香村の午前中の降水確率は 50%になっている。

案内では「小雨決行、但し降水確率 50%以上の場合は中止」としていたのだが、まさに微妙なところである。しかし、時間帯別の降水量を見ると終日 0mm/H になっているので降ってもパラパラ程度と判断し決行に決めた。参加予定者には深夜メール、早朝電話と慌ただしく連絡することになった。

9 時 40 分近鉄飛鳥駅前に集合。明日香京観光協会にお願いしていた観光ボランティアガイドの S さんと落ち合う。

参加者は 16 名、9 期岩成哲男さんは松江

から 3 年連続の参加だ。10 時頃に出発。

S さんは古希とのことだが大変活気に溢れた方で早足で先頭に行く。

幸い雨は降っていない。

まず向かったのは高松塚壁画館。昭和 47 年に彩色壁画の発見が衝撃的な大ニュースとなり、飛鳥と言えはまず高松塚古墳が頭に浮かぶほどで外せない見どころだ。

古墳そのものは非公開であり隣接地に石室内を忠実に再現した壁画館ができていて見学する。入館料 250 円。

女子群像や四神の絵が本物そっくりに描かれている。南側の壁は盗掘の際壊されたのか四神のうち朱雀だけはない。

西側壁の白虎は左（即ち南）を向いているが、同じく壁画で有名なキトラ古墳（今回は少し遠いので行かず）の白虎は面白いことに右向き（北向き）に描かれている。

数年前、彩色壁画のカビによる劣化が明らかになり、古墳内の石を切り出し近くの修理施設で修復作業が行われている。修復は約 10 年かかり修復後は元の古墳に戻されるそうだ。

このあたりは左手に中尾山古墳（八角形墳）、少し北西に吉備津姫王墓、欽明天皇陵（明日香村最大の前方後円墳）があり、S さんによれば「古墳銀座」だが時間の関係で遠くから眺め説明を聞くにとどめる。

古墳の話とともに古代天皇の妻の話があ



った。律令制のもとでは天皇は最大 10 名までの妻を持つことができたそうだ。

皇后（一人） 妃（ひ・二人） 夫人（ぶにん・四人） 嬪（ひん・三人）で 10 名である。

S さんの配ってくれた飛鳥時代の天皇の系譜の図を見ると、確かに天智天皇が皇后倭姫王を始め 10 名、天武天皇が皇后鸕野讃良皇女（後の持統天皇）を始めやはり 10 名の妻を持ちこの特権（？）をフルに活用している。なお額田王は両方の妻にカウントしている。

これなら世継の心配はなさそうだが、生母が違うことから起こる皇位争いも多かったであろう。

なお、S さんによれば飛鳥時代は女帝に始まり女帝で終わった女帝の時代でもあるという。最初が 592 年に豊浦宮で即位した 33 代推古天皇、最後が 690 年飛鳥浄御原宮で即位した 41 代持統天皇。（694 年に藤原宮に遷都）

またこの約 100 年の間には 35 代皇極天皇（後に重祚して 37 代齐明天皇）がおり、女帝が 4 代いたことになる。

次に向かったのは鬼の雪隠と鬼の俎板。

明日香村ののどかな風景を眺めつつ行くと、右側に鬼の雪隠がある。伝説によると、



鬼の雪隠

このあたりは霧ヶ峰と呼ばれ鬼が住んでいて霧を降らせて通行人を襲い上の方にある俎板で料理し、この雪隠で用を足したのだという。



鬼の俎板

S さんも幼い頃ここを通る時は目を開けていると鬼に食われるというので目をつぶってこわごわ通ったものだそうだ。

この鬼の雪隠と道を挟んで上の方に鬼の俎板があるが実はこのふたつはもともとひとつの古墳だったものが、地震か山崩れで石室の部分が下に転がり落ちさかさまになったらしい。



このあたりの明日香村の風景

少し行くと遊歩道の左側の小高い所に天武・持統天皇陵（檜隈大内陵（ひのくまのおうちのみささぎ））がある。先に天武天皇が埋葬され、大化薄葬令により天皇としては初めて火葬された持統天皇が合葬されたと記録されている。

東に暫く進むと亀石がある。



亀石

大きな花崗岩にユーモラスな顔をした亀が彫られている。飛鳥のシンボルの一つである。当麻とこの地川原の水争いに絡む伝説があるそうだ。

続いては橘寺。聖徳太子誕生の地に太子自身が建立したと伝えられている。



橘寺へ向かう

入館料 350 円。

現在の建物はすべて江戸末期に再建されたものである。創建当時を偲ばせるものとしては五重塔の礎石がある。



五重塔の礎石

橘寺という名は、垂仁天皇の命によりトコヨの国へ不老不死の果物を探しに行った田道間守(たじまもり)が持ち帰った橘の実を植えたことに由来するという。

境内に石造物「二面石」がある。人間の善悪二相を表しているという。



二面石

そろそろ昼食時になったので石舞台の近くの休憩所「風舞台」で弁当を広げる。



風舞台で昼食

小雨が降っているが気になるほどではない。

石舞台は飛鳥の代表的スポットである。

10 年以上前に来たことがあるがそのときは広場の中に石舞台古墳があり自由に行けた記憶があるが、現在は柵に囲まれ入場料 250 円が必要になっている。

7 世紀の初め頃に築造されたと推定され蘇我馬子の墓という説が有力である。

土木機械もない古代にどのようにして何

10t もの石を天井に載せたのか不思議である。



石舞台古墳

地下の石室では地元のボランティアのお年寄りが定点解説で椅子に座り蘇我・物部戦争などの話をしていた。S さんも島の庄の住民でここからごく近い所に住んでおられる。



石室の内部

地元の歴史・文化に誇りを持ち、国内外から訪れる観光客にそれを紹介する仕事は張り合いがあることだろう。

石舞台前で記念撮影、しかし構図がずれていて背景のはずの石舞台はちらりと見えるだけになってしまった。

石舞台から次の目的地「伝飛鳥板蓋宮跡」へ向かう。道中は古い町並みで、途中旧家が店のような構えになっていて「蘇民将来」、「蕎麦」、「珈琲」などの看板の出ているところがある。メンバーの一人が「確かここ

は昔 NHK 松江放送局のアナウンサーをしていた方がやっている店です」というので入って店の人に聞いてみた。するとすぐ主人を呼びに行き出てこられた。



元NHK松江局アナウンサー渡辺氏の  
やっている飛鳥藍染織館

渡辺誠弥さんといい昭和 60 年まで松江局におられたとのことで、松江の高校の同窓会ですと言うと懐かしがられてゆっくりして行くように勧められたが先を急ぐので失礼した。渡辺氏は 48 歳で NHK を退職し明日香村にきて旧家を利用した「飛鳥藍染織館」を始めた。店内は藍染や土鈴のコレクションがたくさん並べられており蕎麦中心の田舎料理や喫茶もやっている。またあらためてゆっくり来たいところである。

やがて「伝飛鳥板蓋宮跡」に着く。



伝飛鳥板蓋宮跡

このあたりの発掘調査では、時期の異なる遺構が重なって存在することがわかって

おり、飛鳥岡本宮（630～636年）、飛鳥板蓋宮（643～655年）、後飛鳥岡本宮（656～667年）、飛鳥浄御原宮（672～694年）がこの地に存在したようだ。

中でも飛鳥板蓋宮は645年に中大兄皇子、中臣鎌足による蘇我入鹿暗殺が行われた場所として有名である。

専横を極めていた蘇我一族の滅亡（二人の娘を中大兄皇子の嬪にしている蘇我倉山田石川麻呂は残ったがこれも後に謀反の疑いを受けて自害）につながった皇極天皇4年6月12日のこの事件は「乙巳の変」（いっしのへん）と呼ばれるが、まさに歴史が動いた時でありその舞台に立ち1400年近く前のその事件の光景を想像する。

次に向かったのは酒船石・亀形石遺跡。

酒船石は昔から有名だがその下の方で2000年に実施された発掘時に砂岩でできた湧水設備とそれに続く形で小判形石造物と亀形石造物が発見された。



どのような目的の施設であったかは諸説があるが、閉鎖された谷のような場所に造られていることから庭園というより水に関連した祭祀場であったという説がうなずける。

南側の丘を登ると酒船石がある。こちらは更に謎の多い遺跡である。酒を造る道具、

庭園の一部、はては天文観測の装置などいろいろの説がある。

松江の同期の友人の一人は、割られた部分を復元した形を想像し、これは手洗い用の石（現在の水道手洗い場）だったという説を主張しているがどうだろうか。



これらの遺跡は日本書紀で土木工事が好きだったと書かれている斉明天皇の事業だと考えられている。

また先の亀石やこの亀形石など亀の石造物が多いが、道教の神仙世界では亀は天宮を支える神聖な動物と考えられているので、道教思想を重視したといわれる斉明天皇の思いが反映されているのだろう。

飛鳥散策も終わりに近づいていた。次は飛鳥寺である。



飛鳥寺は蘇我馬子が創建した蘇我氏の氏寺で日本最古の寺である。創建時は法興寺

といい、平城遷都にともない今の奈良市に移転し元興寺になった。しかし飛鳥の法興寺も存続し、本元興寺と称された。飛鳥寺と呼ばれるようになった時期ははっきりしないようだ。

本尊飛鳥大仏は推古天皇 17 年（609 年）鞍作鳥（止利仏師）によって造られた日本最古の仏像だといわれている。しかし、平安・鎌倉時代の二度の大火で罹災しかなりの部分が補修されている。



飛鳥大仏

国宝に指定されていないせいか写真撮影もでき身近に拝見することができる。目の形が後代の仏像に比べ特徴がある。



境内で記念撮影

いよいよ最後の目的地となった水落遺跡に向かう。今は廃屋になった小学校の近くにあり、中大兄皇子が作ったとされる水時計・漏刻（ろうこく）の遺構を復元したものである。

どのような仕掛けだったのかは分からないが、当時としてはハイテクの粋を集めて作ったのであろう。この漏刻により初めて正確な時刻を人々に知らせることができるようになったのである。役人の出退勤もここで鳴らす鐘に従ったのだろうか。



水落遺跡

時計は 3 時を過ぎ足も疲れてきたので甘樫の丘展望台はまたの機会に回し本日の行程は終了とする。甘樫丘の奈良交通バス停へ向かい 15:42 の橿原神宮行きに乗ることにする。雨も少しは降ったが先ずは無事目的の場所をまわることができてよかった。

バスが来るまで付き合ってくれた S さんにお礼を言って別れバスに乗り込んだ。

#### 今回の行程

|         |           |     |
|---------|-----------|-----|
| 飛鳥駅前    | 高松塚壁画館    | 鬼の  |
| 雪隠・鬼の俎板 | 天武・持統天皇陵  |     |
| 亀石      | 橘寺        | 石舞台 |
| 伝飛      |           |     |
| 鳥板蓋宮跡   | 酒船石・亀形石遺跡 |     |
| 飛鳥寺     | 水落遺跡      |     |